

# せつめいぶん 説明文を か 書こう

## せつめいぶん 説明文って、なあに？

不思議に思ったり、もっと知りたいことなどを本で調べたり、自分でたしかめたりして、  
分かったことを、写真や絵、図などを入れながら文章にしたものが、説明文です。

### ◆ 知りたいこと、調べたいことを見つけて、テーマを決めよう

- ・毎日の生活の中から、びっくりしたこと、不思議だなと思うこと、勉強して、もっと知りたいと思ったことなど、気持ちがわくわくするものを見つけよう。

【テーマの例】道でミミズは干からびているのはなぜ？ミミズが出てくるひみつを調べる。

金魚すくいたくさん取るにはどうしたらいいのか？ポイの強さを調べる。

物をちがう高さから落とすときのしょうげきのちがいを調べる。

打ち水で本当に気温は下がるのか調べる。

### ◆ 調べたり、ためしてみたいしよう。＊家の人と相談してすすめよう。

- ・観察するときには、変わっていく様子をしっかり見よう。また、さわったり、大きさや重さをはかったりして、記録しよう。
- ・ためす前に、予想を立てておき、結果と比べよう。
- ・ためしたり、観察したりして分かったことと、自分の考えや思ったことは、分けて記録しよう。

### ◆ か 書いてみよう。

- ・「テーマを決めた理由」、「知りたかったこと」、「分かったこと」、「まとめ」の順に書いていこう。

- ・字数 【1年】 1200字以内 【2、3年】 1200字～1600字以内  
【4～6年】 1600字～2400字以内

- ・作文の題名、学校名、名前はマスの外に書く。
- ・カタカナを使うのは、外来語、擬音語（擬声語）、動植物名を原則とする。（擬態語はひらがなで書く。）
- ・むやみにカタカナを使わない。例 ×ゴミ、ビックリ、ソックリ、オーイなど
- ・むやみに英語の表記や記号（！・？・ー・あなど）を使わない。  
例 ×おーい ○おうい ×ああ ○ああ

- ・調べた結果は、図や表、写真、絵などを使って分かりやすく伝えよう。



## ○ ゆうしゅうさくひん（せつめい文）

「2017年度版 みかわの子（1年生の作品）」より抜粋

### ○ 『アリのすのかんさつ』

ぼくのうちのには、たくさんのおきはながうえてあります。そのしたには、いつもたくさんのおしたちがいます。そのなかで、いつもいるのがアリです。アリは、むしがしんでいると、きょうりよくして、すにはこびます。このアリのすには、なにがあるのかきになったので、しらべてみました。

じゅんぴしたものは、うすいいれものです。そこに、すなをいれて、アリがどんなふうにするをつくっているのかをかんさつすることにしました。はじめに、アリ10ぴきつかまえて、いれものにいれました。はやくはしるので、つかまえるのがとてもたいへんでした。

はじめは、みんなこわいのか、なにもしませんでした。2じかんくらいたつと、1ぴきのアリがすなをはこんで、すをつくりはじめました。（しゃしん①）じゃまにならないようにはこんでいるところがおもしろかったです。つぎのひのあさになると、3せんちくらいみちができていました。

ふつかたつと、みちのとちゅうに、ちいさなへやができていました。（しゃしん②）（ちゅうりやく）

アリのすには、ごはんをいれておくへやと、すなをおいておくへやがありました。（ちゅうりやく）

アリには、ぼくみたいにおとうさんとおかあさんがいるのかきになったので、ずかんでしらべてみました。アリには、じょおうアリとはたらきアリがいるそうです。じょおうアリは1ぴきいて・・・（ちゅうりやく）

アリのかんさつをして、アリのすには、ごはんをおいておくへやや、すなをおいておくへやがあることがわかりました。じょおうアリのへややたまごをそだてるへやはかんさつできなかったので、はねのついたじょおうアリをみつけたら、かんさつしてみたいです。



## ○ ゆうしゅう作ひん（せつめい文）

「2019年度版 みかわの子（2年生の作品）」より抜粋

### ○『どうしてミミズは出てくるの』

「一、二、三…。今日は五ひきだったよ。」

と、わたしが言うと、

「まだ数えているの。」

とお母さんが言いました。

一年生のゴールデンウィーク明けから、わたしは毎日、通学路でひからびてしまったミミズを数えていました。夏休みの前日まで数えると、百八十五ひきでした。土の中にいけばひからびてしまうことがないのに、どうしてアスファルトの上に出てきてしまうのか、ふしぎに思いました。ところが、きょ年はたくさんいたミミズが、今年はとても少なかったです。

そこで、きょ年と今年のちがいがから、ミミズが出てくるりゆうを考えることにしました。インターネットでしらべると、きょ年は晴れた日が多くて、気おんがひくかったです（ひょう①）。そのため、気おんと雨のりょうからしらべるじっけんをすることにしました。

一つ目のじっけんは、ペットボトル作ったようきにミミズと土を入れて、日がよくあたる場しよにおいてかんさつしました。（中略）

二つ目のじっけんは、雨のりょうからミミズをかんさつするため、一つ目のじっけんでつかったようきにじょうろで水をかけました（しゃしん③）。（中略）

二つのじっけんから、ミミズはあついところや水がたくさんあるところがにが手で、土の上に出てきてしまうのだと分かりました。（中略）

しかし、ミミズがすんでいる地めんは、じっけんでつかったようきよりもふかく、ミミズはもっとふかくもぐることができます。だから、つぎは、もっとふかいようきでしらべてみたいです。

じっけんをしてみて、ミミズのなぞが少し分かりましたが、生きものをつかったじっけんは、いのちがあるから、むずかしいとかんじました。でも、新しいぎもんもたくさん出てきたので、またいつかミミズについてしらべてみたいです。



## ○ ゆうしゅう作ひん（せつめい文）

「2019年度版 みかわの子（3年生の作品）」より抜粋

### ○『めざせたつじん～スーパーボールも金魚もにがさないぞ～』

わたしの住んでいる地いきでは、秋まつりに地いきのおじいちゃんたちが、金魚すくいとスーパーボールすくいを出店しています。

わたしは毎年、気合いを入れてちょうせんしますが、いつも一ぴきもすくえず、おまけでおじいちゃんたちに金魚をもらって終わります。

すぐとなりでは、たくさんすくって、その中からすきな物をえらんでもらっている子がいて、いつもくやしいなあと思います。

そこで、どうしたらたくさんすくえるのか、たつじんになるためにはどうしたらいいのかを調べてみようと思い、研究することにしました。

まず、金魚すくいやスーパーボールすくいを使うポイの強さを調べてみました。（中略）

つぎに、ポイの角度をかえて水のていこうを調べてみました。（中略）

（実験や観察の結果から、五つのひみつを見つけたことが書かれています。）

この五つのひみつでスーパーボールすくいをためしてみたら、いつもどおりのやり方でわたしは十五こ、弟は十一こだったのが、わたしは二十三こ、弟は二十こまですくえるようになりました。

この五つのひみつで、秋まつりにはたつじんになっていると思います。

秋まつりが楽しみです。



## ◎ 優秀作品（説明文）

「2019年度版 みかわの子（4年生の作品）」より抜粋

### ○ 『しょうげきの実験』

#### 一、研究したきっかけ

ぼくは、好きなきょうりゅうの図かんを読んでいてこんな記事を見つけた。

「二〇一〇年、古生生物、地球物理学などのせん門家たちの国さい会議で、六千六百万年前のきょうりゅうのぜつめつは、小わく星の地球へのしょうとつがかんきょうをげき変させたことで起きたと結ろんづけられた。直径一〇から一五kmのいん石がメキシコに落ち、できたクレーターは、直径一九〇kmくらいの大きさであることが分かっている」と書かれてあった。

そして、今年の七月、地球の近くを直径一三〇mの小わく星「二〇一九・OK」がかすめた。〇〇小学校の運動場くらいの直径だ。これが、もし、地球にしょうとつしていたら、東京都くらいの広さをかためつさせる力があったそうだ。ぼくは、このことにおどろいた。あぶない、あぶない、大変なことになっていたんだ。しょうとつのしょうげきってすごい。

キャッチボールで、高く上がった球の方がキャッチするときに重く感じる。このけい験からぼくは、物が落ちたときのしょうげきは、速さ、高さ、大きさ、重さ、固さ、角度、この中で、かんとんにちがいをつくることのできるのは「高さ」だと考え、「高さ」としょうげきについて調べてみたいと思った。



（中略）

- 二、調べたいこと
- 三、用意したもの
- 四、実験の方法
- 五、予想
- 六、実験の様子と結果
- 七、実験の結果から考えたこと

の順に結果や考えがまとめられています。

たった五〇gの物が一五〇tになるかもしれないと考えると、いん石のしょうとつは、本当におそろしい。東京都のかいめつどころか人類のめつぼうが起こってもおかしくない。

ねんどを落とす高さを変えていくたびに、

「おおっ。」

と声が出てしまうくらい、この実験はこうふんした。もっと重い物を量れるはかりを使ってみたとしたら、一〇cmずつ高くするのではなく、一mずつ高さを変えたとしたら、ねんどではなく固い石や金ぞくを落とすとしたら、結果は変わるだろうか。不思議は、ますます広がった。

## ◎ 優秀作品 (説明文)

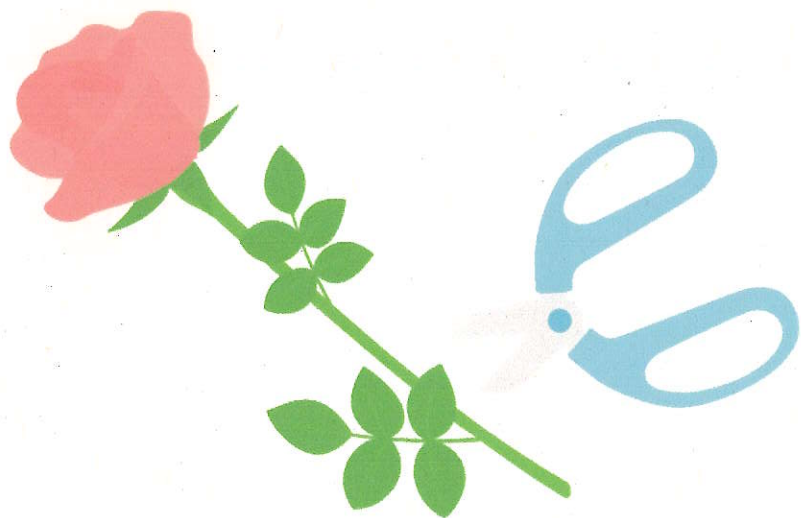
「2016年度版 みかわの子 (5年生の作品)」より抜粋

### ○『切り花のひみつ』

お父さんがもらってきた花束に、にじ色のカーネーションが一本だけ入っていた。にじ色の花が自然にさくなんて聞いたことがなかったから、きっと人が作ったんだと思った。わたしにもこんなきれいな花が作れないかと考え、切り花の研究をすることにした。

(中略…白いカーネーションに色をつけたり、切り花を長持ちさせる方法について調べたことがくわしく書かれていたりしています。)

今回の実験で、せっかくもらったり、買ったりした花束なのだから、自分で工夫して、きれいにしたり、長持ちさせたりできることがわかった。あとで、カーネーションを買った花屋さんでたずねると、もっと長持ちさせるためには、花びんの水を毎日かえること、花びんを毎日きれいにあらうことが大切だと教えてもらった。わたしが、実験をしたカーネーションも、毎日水をかえたりすればもっと長持ちしたのかもしれない。切り花も生きている。だから、花にとって過ごしやすい環境を作ることを考えて世話をしていきたい。



## ◎ 優秀作品 (説明文)

「2021 年度版 みかわの子 (6年生の作品)」より抜粋

### ○『スティックのりの可能性』

今年の夏休み、ぼくは不思議な体験をした。がんばって完成させた工作の色が、三日後消えていた。(写真①) ホログラムシートに、スティックのりをぬって、接着した部分だった。なぜ、こんなことになってしまったのだろう。この原因を、てっ底的につき止めることにした。

まず、スティックのりの主成分を調べてみた。「PVP」と書いてあった。「PVP」とは、ポリビニルピロリドンの略称だという。PVPの特ちょうの一つに、水にとけにくい物質をとかず役割があることも分かった。

このことから、ぼくは、スティックのりにふくまれるPVPが、ホログラムシートのと料を落とししてしまったのではないかと仮説を立てた。そこで、次のような実験をした。

(中略…実験の結果と、そこから生じた疑問についてさらに調べていく様子が書かれています。)

この結果から、スティックのりが、ホログラムシートのアルミニウムはくをとかしたことが証明できた。やっと、スティックのりに関するぼくの疑問が解決できたのだ。

今までは、接着することにしか使わなかったスティックのりだが、ペンキを落としたり、色をぬいたり、いろいろなことに使えることが分かった。その成分や特ちょうを理解し、使い方を工夫すれば、もっと生活に役立つものになるかもしれない。これから、スティックのりの可能性がどんどん広がっていくといいなと思う。

